

# 木の日研修「林業と人工林の行方」

【開催日時】2021年2月4日(木曜日) 19:00~21:00

【開催場所】リモート(ZOOM)

【主催】森林インストラクター東京会(30期 みわの会)

【講師】原島 幹典先生

## 【一文紹介】

林業家であり、森林ボランティア活動や森林・林業教育等の経験を持つ講師の実践経験に基づくお話しです。

## 【公開記事】

今回の研修会は、3部構成です。

- ①林業と森林インストラクターに関する経験談
- ②人工林と林業の歴史的な変遷
- ③林業の現状と問題点

3  
部  
構  
成



## 原島 幹典先生の研修会始まり

1. 林業と森林インストラクターに関する経験談  
林業後継者としての挑戦と挫折  
奥多摩都民の森、体験講座  
森林ボランティア活動を通じた出会い  
森林文化アカデミーの人材教育
2. 人工林と林業の歴史的な変遷  
収奪から保護・育成、そして停滞  
過伐による荒廃→拡大造林→手入れ不足による過密の荒廃
3. 林業の現状と問題点  
産業振興と環境保全の政策ギャップ  
家業継承困難、野生動物被害の激化、過剰伐採リスク

「森林」には様々な働きがあり私たち人間社会にも多くの恵みをもたらしてくれるので「森林」を守っていくことは大事、ということに異を唱える人はいないでしょう。

ではスギやヒノキの「人工林」はどうなのでしょう？

今ある人工林の間伐の必要性はわかるが、全部伐った後にまたスギ・ヒノキを植える必要があるの？

採算が取れないのになぜわが国で林業を続ける必要があるの？

人工林はやめて天然林に戻していけばいいのでは？ といった話は一般の方からよく聞かれます。

森林インストラクターとしてこれらの質問にどのように答えるか。

答え方は FIT 会員によって様々だと思われそうですが、今回の原島氏のお話は、その答え方などについて改めて考える貴重な機会になったと思います。

前述の3部構成のうち、

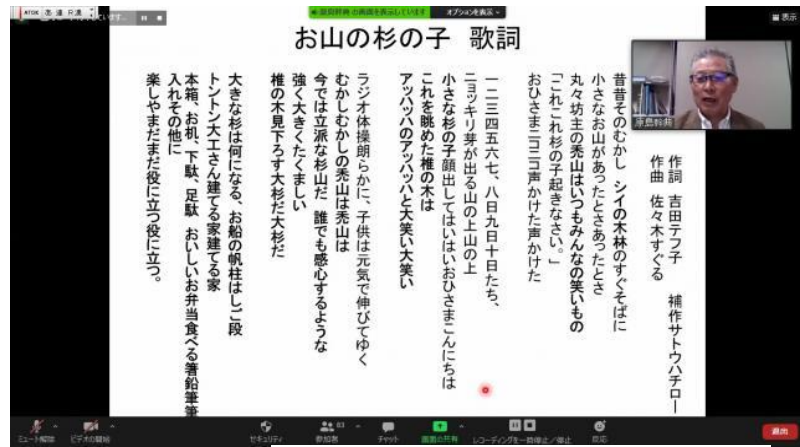
第1部では、原島氏の3代前から奥多摩で林業経営を始めた経緯、北山林業へ修行に出たこと、奥多摩都民の森などでの林業体験講座やボランティア活動を通じた出会い、そして岐阜県の森林文化アカデミーでの13年間に及ぶ人材教育などについて、スライド写真を交えながらのお話がありました。アカデミーの演習林で学生と一緒に檜皮(ひわだ)作りをする中で、「木はわが国の貴重な資源。適切に扱えば捨てるものはない。これを伝えたい。」というお話が印象的でした。また、人工林の下でわさび栽培を続け、木を育てることのみならず「自然の恵みを楽しむ」ことも大切と教えてきたとのお話もありました。



自然の恵みを楽しむ

第2部では、戦国時代に遡る森林の過伐とその後の保護政策、人の営みと里山の成り立ち、戦中戦後の需要拡大・伐採とその後の国家的な植林、高度経済成長と拡大造林・木材輸入の増大などのご説明があり、その中で人工林経営を取り巻く環境が悪化し、全国的に手入れ不足の林が増え、それに対して様々な国の政策が打ち出されてきたことなどについてお話がありました。お話の中で、林業経営的には「皆伐」が最も有利。

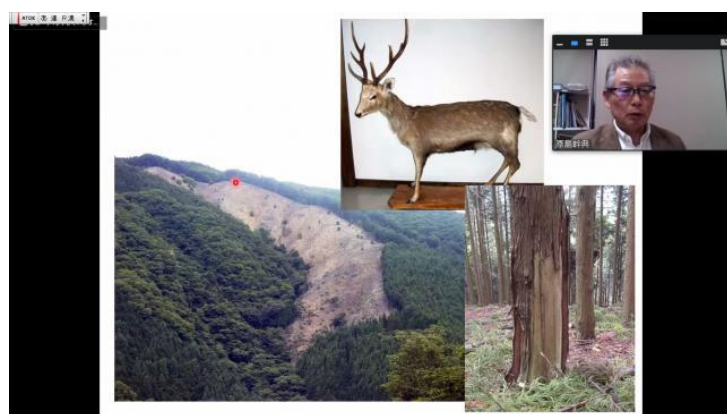
「皆伐」が全て駄目となると林業は成り立たない。今後、国産材の需要が高まれば「皆伐」が増えるが、その跡地をどうしていくかが最も大きな問題。など、現に山林を経営されている原島氏の経験に基づく内容が印象に残りました。



当時の様子がわかる歌詞

主題となる第3部では、産業としての林業の振興政策、森林の公的管理、木材利用の見通し、二ホンジカやカモシカの被害、林業現場の担い手の問題などについて、様々な面からの経験談や原島氏のお考えなどを聞くことができました。

補助金なしで林業が生業として成り立つためには、材価が現在の3倍にならなければ無理。地域の森林所有者は森林に関わらなくなり、林業の現場は都市部などから来る雇用人によって担われている。などのお話がありました。



皆伐は大きすぎると問題も。動物の被害も深刻



経営が成り立つ材価には程遠い

わが国の林業が以上のような現状にあり、様々な問題を抱える中、森林インストラクターは、森林の持つ「環境」と「産業」という両面を十分理解しながら一般の方々にも丁寧に解説することが大事というお話があり、そのためには FIT 会員一人一人が「林業」や「人工林」についての知見を一層深め、自らの考えも整理して、前述のような一般の方々の疑問・質問に対してわかりやすく説明していくことが必要であることを改めて認識した研修となりました。

お忙しい中、長時間にわたって貴重なお話をして頂いた原島氏に深く感謝いたします。

- 【参加人数】 90名(内訳 FIT・友の会:90名)
- 【報告者名】 枝澤 修(30期 みわの会)
- 【報告写真枚数】 6枚